

14時30分解禁

平成27年1月 全国百貨店売上高概況

平成27年2月19日

I. 概 況

1. 売上高総額	5,423億円余
2. 前年同月比	-2.8% (店舗数調整後/10か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	83社 240店 (平成26年12月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,090,919㎡ (前年同月比:-2.4%)
5. 総従業員数	77,857人 (前年同月比:-3.2%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	6-8月 -2.6%、7-9月 -1.3%、8-10月 -1.1%、 9-11月 -1.3%、10-12月 -1.6%、11-1月 -1.8%

[参考] 平成26年1月の売上高増減率は2.9% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

1月は、正月休暇の1日減や日本海側を中心とした上旬の大雪などから、年頭商戦に影響を受けた地域も多く、全体的に厳しい滑り出しとなった。中旬以降も冬型の気圧配置が長続きせず、気温が高く降水量が多かったことや、前年の消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動もあり、10か月連続のマイナスに終わった。

地区別では、東京(+0.7%/3か月連続プラス)、大阪(+2.2%/7か月連続プラス)の主要地区が前年を確保したことで、大都市圏は1.3%減にとどまったが、天候不順などの影響を強く受けた地方都市の不振(-5.5%)が目立った。

商品別では、不安定な天候が入店客数と重衣料を中心とした防寒衣料の売れ行きに影響し、主力の衣料品(-5.8%)が振るわず、昨年の駆け込み需要で数字を伸ばした家庭用品にも反動減(-9.0%)が見られた。半面、化粧品(+7.1%/7か月連続プラス)や、美術・宝飾・貴金属(+4.7%/2か月連続プラス)は引き続き好調を持続し、雑貨(+3.9%/3か月連続プラス)の伸びを牽引した。

なお、訪日外国人売上高(+180.8%)は、12月に続いて単月で100億円を超えるとともに、購買客数も高い伸び(+176.0%)を示し、春節休暇のズレ(昨年:1/31~⇒本年:2/18~)を感じさせない結果となった。

【要 因】

- (1) 天 候 : 気象庁発表「1月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)
◇強い寒気が南下したことで上旬は全国的に気温が低くなり、日本海側では大雪となった。また低気圧がたびたび本州付近を通過し、東日本太平洋側と西日本では月降水量が多く、特に西日本太平洋側ではかなり多かった。
- (2) 営業日数増減 30.2日 (前年同月比+0.1日)
- (3) 土・日・祝日の合計 11日 (〃 +1日/土曜1日増)
- (4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数138店舗)
①増加した:15店、②変化なし:34店、③減少した:89店
- (5) 1月歳時記 (初売り、冬的全館セール) の売上 (同上/有効回答数104店舗)
①増加した:12店、②変化なし:41店、③減少した:51店

NEWS LETTER

日本百貨店協会

全国百貨店 売上高速報 2015年01月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後（ ）が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	542,389,439	100.0	-2.8 (-3.2)
10都市	360,518,905	66.5	-1.3 (-1.5)
札幌	13,602,860	2.5	-2.2
仙台	7,766,545	1.4	-6.9
東京	138,985,985	25.6	0.7
横浜	31,485,974	5.8	-2.9
名古屋	34,761,335	6.4	-2.1
京都	21,071,824	3.9	-13.2 (-15.5)
大阪	68,614,980	12.7	2.2
神戸	14,337,426	2.6	-2.4
広島	11,740,112	2.2	-4.1
福岡	18,151,864	3.3	-3.4
10都市以外の地区	181,870,534	33.5	-5.5 (-6.3)
北海道	2,818,550	0.5	-5.9
東北	8,720,216	1.6	-6.7
関東	84,240,186	15.5	-5.7 (-5.6)
中部	13,573,825	2.5	-5.2
近畿	23,540,438	4.3	-6.0
中国	12,305,571	2.3	-6.6
四国	9,503,971	1.8	-4.1 (-13.9)
九州	27,167,777	5.0	-4.1 (-6.2)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	542,389,439	100.0	-2.8 (-3.2)
紳士服・洋品	46,736,413	8.6	-2.7 (-2.9)
婦人服・洋品	139,905,675	25.8	-6.5 (-6.9)
子供服・洋品	14,373,837	2.7	-4.9 (-5.2)
その他衣料品	13,332,717	2.5	-9.1 (-9.5)
衣 料 品	214,348,642	39.5	-5.8 (-6.1)
身のまわり品	75,856,005	14.0	-1.1 (-1.4)
化粧品	28,590,167	5.3	7.1 (6.9)
美術・宝飾・貴金属	26,662,204	4.9	4.7 (4.1)
その他雑貨	21,239,101	3.9	-1.2 (-2.0)
雑 貨	76,491,472	14.1	3.9 (3.3)
家 具	5,752,409	1.1	-14.7 (-15.3)
家 電	1,212,773	0.2	-2.4 (-2.4)
その他家庭用品	16,877,046	3.1	-7.3 (-7.6)
家 庭 用 品	23,842,228	4.4	-9.0 (-9.4)
生 鮮 食 品	24,485,206	4.5	-4.8 (-5.6)
菓 子	34,220,147	6.3	0.4 (0.1)
惣 菜	28,180,183	5.2	-0.5 (-0.8)
その他食料品	35,874,049	6.6	-0.4 (-0.9)
食 料 品	122,759,585	22.6	-1.1 (-1.6)
食 堂 喫 茶	14,421,238	2.7	-3.4 (-3.5)
サ ー ビ ス	5,177,506	1.0	-2.0 (-2.0)
そ の 他	9,492,763	1.8	1.5 (0.9)
商 品 券	9,433,818	1.7	-7.1 (-7.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

NEWS LETTER

日本百貨店協会

II. 地区別の動き

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | - 1.3% (店舗数調整後/2か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | - 5.5% (店舗数調整後/10か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	- 1.3	- 0.9	2か月連続マイナス
札幌	- 2.2	- 0.1	2か月連続マイナス
仙台	- 6.9	- 0.1	10か月連続マイナス
東京	0.7	0.2	3か月連続プラス
横浜	- 2.9	- 0.2	2か月連続マイナス
名古屋	- 2.1	- 0.1	2か月連続マイナス
京都	- 13.2	- 0.6	10か月連続マイナス
大阪	2.2	0.3	7か月連続プラス
神戸	- 2.4	- 0.1	5か月連続マイナス
広島	- 4.1	- 0.1	10か月連続マイナス
福岡	- 3.4	- 0.1	2か月連続マイナス
10都市以外の地区	- 5.5	- 1.9	10か月連続マイナス
北海道	- 5.9	0.0	10か月連続マイナス*
東北	- 6.7	- 0.1	10か月連続マイナス*
関東	- 5.7	- 0.9	10か月連続マイナス
中部	- 5.2	- 0.1	4か月連続マイナス
近畿	- 6.0	- 0.3	10か月連続マイナス
中国	- 6.6	- 0.2	10か月連続マイナス*
四国	- 4.1	- 0.1	2か月連続マイナス
九州	- 4.1	- 0.2	10か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が3か月連続のプラスとなった。また、身のまわり品が2か月連続、衣料品が4か月連続、家庭用品と食料品が10か月連続のマイナスとなった。化粧品が7か月連続、美術・宝飾・貴金属が2か月連続、菓子が2か月ぶりのプラスとなった。その他では、その他雑貨、家具、家電、その他家庭用品、惣菜、その他食料品が先月より改善をみせた。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-2.8	—	10か月連続マイナス
紳士服・洋品	-2.7	-0.2	4か月連続マイナス
婦人服・洋品	-6.5	-1.8	4か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.9	-0.1	5か月連続マイナス
その他衣料品	-9.1	-0.2	4か月連続マイナス
衣料品	-5.8	-2.4	4か月連続マイナス
身のまわり品	-1.1	-0.1	2か月連続マイナス
化粧品	7.1	0.3	7か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	4.7	0.2	2か月連続プラス*
その他雑貨	-1.2	0.0	5か月連続マイナス*
雑貨	3.9	0.5	3か月連続プラス
家具	-14.7	-0.2	10か月連続マイナス
家電	-2.4	0.0	3か月連続マイナス
その他家庭用品	-7.3	-0.2	5か月連続マイナス
家庭用品	-9.0	-0.4	10か月連続マイナス
生鮮食品	-4.8	-0.2	10か月連続マイナス*
菓子	0.4	0.0	2か月ぶりプラス*
惣菜	-0.5	0.0	5か月連続マイナス*
その他食料品	-0.4	0.0	10か月連続マイナス*
食料品	-1.1	-0.2	10か月連続マイナス
食堂喫茶	-3.4	-0.1	2か月連続マイナス
サービス	-2.0	0.0	2か月連続マイナス
その他	1.5	0.0	5か月ぶりプラス
商品券	-7.1	-0.1	47か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

NEWS LETTER

平成27年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成27年2月19日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,389億円余
2. 前年同月比	0.7% (3か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.5%(91.4%) : 非店頭2.0%(8.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	854,956㎡ (前年同月比:-2.4%)
6. 総従業員数	18,808人 (前年同月比:-0.9%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	6-8月 -1.6%、7-9月 +0.0%、8-10月 0.5%、 9-11月 0.2%、10-12月 0.2%、11-1月 0.4%

[参考] 平成26年1月の売上高増減率は5.4% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

- (1) 1月の入店客数は、正月休暇が1日少なかったことや後半の天候不順の影響もあったが、店舗ごとの強弱を織り込んでほぼ前年並みの実績を残した。
- (2) 初商は、福袋が好調で各社とも順調な滑り出しを見せた。クリアランスについては序盤が好調であった半面、中盤以降はやや勢いを欠いたが、一方で早期投入の春物衣料を中心としたプロパー商品に動きが出ていることなどから、月計では前年を確保することができた。
- (3) 商品別では、婦人服(-3.7%)が伸び悩んだものの、紳士服(+6.2%)の好調が寄与し衣料品は1.6%減にとどまった。また、インポートブランドを含む身のまわり品(+3.4%)や、高級時計などの動きが顕著な美術・宝飾・貴金属(+6.3%)、保湿やメイクアップ商品の国内需要が高まる化粧品(+15.0%)などが、外国人観光客の購買増などもあって好結果を示した。加えて、食料品が菓子(+1.4%)、惣菜(+1.6%)、その他食料品(+2.4%)の好調を背景に、2か月ぶりのプラス(+1.1%)となったのが注目される。
- (4) 東京地区の2月の商況(16日段階)は、新規ブランドの導入や展開日数の増が奏功してバレンタイン商戦が活況を呈していることや、昨年は中旬までに二度に亘り週末が大雪だったことの反動もあり、前年比プラス4%強で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.1日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 6店、②変化なし: 5店、③減少した: 8店
- (3) 1月歳時記(初売り、冬の全館セール)の売上(同上/有効回答数10店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 5店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2015年01月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	138,985,985	100.0	0.7
紳士服・洋品	14,689,232	10.6	6.2
婦人服・洋品	32,941,026	23.7	-3.7
子供服・洋品	2,625,974	1.9	-0.4
その他衣料品	2,860,482	2.1	-13.0
衣 料 品	53,116,714	38.2	-1.6
身のまわり品	20,386,196	14.7	3.4
化粧品	7,874,402	5.7	15.0
美術・宝飾・貴金属	8,349,176	6.0	6.3
その他雑貨	6,201,646	4.5	-1.4
雑 貨	22,425,224	16.1	6.8
家 具	1,581,287	1.1	-19.8
家 電	702,610	0.5	4.6
その他家庭用品	4,458,001	3.2	-8.7
家 庭 用 品	6,741,898	4.9	-10.5
生 鮮 食 品	4,440,425	3.2	-2.8
菓 子	7,808,697	5.6	1.4
惣 菜	6,638,136	4.8	1.6
その他食料品	9,023,153	6.5	2.4
食 料 品	27,910,411	20.1	1.1
食 堂 喫 茶	3,136,529	2.3	-1.4
サ ー ビ ス	2,228,104	1.6	2.6
そ の 他	3,040,909	2.2	4.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	1,898,654 千円	-10.1
従 業 員 数	18,808 人	-0.9
店 舗 面 積	854,956 m ²	-2.4

営 業 日 数	30.1 日	前年	30.1 日
---------	--------	----	--------

NEWS LETTER

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が7か月連続、雑貨が4か月連続、食料品が2か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が3か月連続、衣料品が2か月ぶりのマイナスとなった。紳士服・洋品、化粧品が7か月連続、美術・宝飾・貴金属が3か月連続、家電、惣菜が2か月連続、菓子、その他食料品が2か月ぶりのプラスとなった。その他では、子供服・洋品、その他雑貨、家具、その他家庭用品、生鮮食品が先月より改善をみせた。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.7	—	3か月連続プラス
紳士服・洋品	6.2	0.6	7か月連続プラス
婦人服・洋品	－3.7	－0.9	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	－0.4	0.0	2か月連続マイナス
その他衣料品	－13.0	－0.3	5か月連続マイナス
衣料品	－1.6	－0.6	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	3.4	0.5	7か月連続プラス
化粧品	15.0	0.7	7か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.3	0.4	3か月連続プラス*
その他雑貨	－1.4	－0.1	5か月連続マイナス*
雑貨	6.8	1.0	4か月連続プラス
家具	－19.8	－0.3	10か月連続マイナス
家電	4.6	0.0	2か月連続プラス
その他家庭用品	－8.7	－0.3	2か月連続マイナス
家庭用品	－10.5	－0.6	3か月連続マイナス
生鮮食品	－2.8	－0.1	10か月連続マイナス*
菓子	1.4	0.1	2か月ぶりプラス*
惣菜	1.6	0.1	2か月連続プラス*
その他食料品	2.4	0.2	2か月ぶりプラス*
食料品	1.1	0.2	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	－1.4	0.0	2か月連続マイナス
サービス	2.6	0.0	3か月連続プラス
その他	4.6	0.1	6か月ぶりプラス
商品券	－10.1	－0.2	3か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>